

横浜上海友好都市 40 周年記念事業

ベーカリーチャイナで障がい者たちの日中民間交流を実現

5月20日～22日、中国の上海新国際博覧センターで中国製パン・製菓国際見本市「ベーカリーチャイナ2013」が開催された。

その会期中に横浜上海友好都市 40 周年記念事業のひとつである横浜市と上海市の知的障がい者の民間交流が、「榎澤電機製作所」と同社の中国関連会社「上海溶岩食品機械有限公司」のブースで行われた。

日本からは横浜市泉区にある社会福祉法人開く会（鈴木正明理事長）が運営する、知的障がい者授産施設「共働舎」のパン工房で働く4名（及川俊文さん、小林麻衣さん、水谷真也さん、石原秀隆さん）が参加。そして彼らをサポートする特定非営利活動法人NGB C（ニュー・ジェネレーション・ベーカリー・クラブ）のメンバーであるパン職人と、その仲間たち総勢 21 名が集まった。



ブースには連日朝から大勢の来場者が訪れ、共働舎のメンバーたちのパンづくりを熱心に見学。彼らの仕事ぶりを見て、驚き感動している様子が伝わってきた。

共働舎の4人は家族から離れて初めての海外旅行という環境の中、不慣れな場所でパンをつくり、焼き上がったパンの試食を来場者に配るなど大活躍した。デモンストレーションのピッツア、クリームパン、メロンパン、食パン、バゲットの試食には大勢の人が集まり、トレーはあっという間に空っぽ。パンのデモンストレーションを行うことで、障がい者のパンづくりだけでなく日本の有名なパン職人たちの技術も注目を集めた。



5月22日の最終日には、上海市人民対外友好協会常務理事の龔毅氏と上海市浦東新区教育局の呂翠紅氏、そして上海市浦東新区の養護学校の生徒たち4人と先生が来場し、日本のメンバーと一緒にパンづくりを行った。彼らは戸惑うこともなくすぐに作業を始め、交流を深めていた。パン生地を分割丸め、カスタードクリームを計量、成形などの作業工程では、日本のメンバーたちが手ほどきするシーンもあり、まるで一緒にパンづくりをしている仲間同士のような様子であった。

開く会の鈴木理事長は「今日は長年の夢であった、障がい者の国際交流の第一歩が実現した記念すべき日です。22年前に施設を立ち上げてから今日までの歩みを思い出し、感動で涙がとまりませんでした」と語った。



同日の午後1時から展示会場にある会議室に場所を移し、**日中の参加メンバーと上海・横浜友好協会関係者との交流会を行った**

共働舎の萩原達也氏が中国語で開会の挨拶をした後、主催者の澤畠光弘氏（櫛澤電機製作所社長）と鈴木正明氏が今回の記念事業が実現したことに対して関係者に感謝を述べた。そして**今回の記念事業をコーディネートした日中経済文化交流コンサルタントの日置正氏**から、これまでの経緯が紹介された。続いて中国側から、龔毅氏が挨拶に立ち

「今日の素晴らしい交流が実現し、関係者の皆様に感謝します。この交流は大変意義深いものです。この交流を通じて両国の人々の理解が深められました。そして民間組織の交流ができたことで、少しでも国を動かすことができれば幸いです」と述べた。また呂翠紅氏が、日本への感謝と養護学校の現状について語った。

その後共働舎の石原秀隆さんの乾杯音頭で懇親会に移り、共働舎がテレビ番組で取材されたビデオを見ながらメンバーが焼いたパンを食べ懇親のひと時を過ごした。

最後に上海と横浜のメンバーがプレゼント交換を行い、再会を約束して閉会した。



ベーカリーチャイナ2013

障がい者たちの民間交流ツアー参加者

加藤 晃、山本敬三、山本昌宏、斎藤 亮、高崎健人、澤畠光弘、澤畠雄哉、箕輪喜彦、
斎藤政弘、飯塚良雄、成田真由美、鈴木正明、柳田康子、我妻洋美、小林麻衣、萩原達也、
及川俊文、水谷真也、石原秀隆、金近 奏、本行恵子 （順不同敬称略）